

第4号様式(第10条関係)

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第4回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会
開 催 日 時	平成20年 10月 3日(金)午後3時 ~ 5時
開 催 場 所	緑が丘ふれあいセンター男女共同参画センター学習室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：(委員)荻原恵子、鴻田臣代、内野登志子、清野智美、宮川文、 鈴木寿子、矢口幸恵、浜浦秀行、栗原誠 (欠席)三浦千恵子 (事務局)木村地域振興課主査、橋本地域振興課主事
議 題	1 報告事項 (1)第3回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (2)その他 2 議 題 (1)情報誌「YOU・I」第16号の発行について (2)第9回YOU・Iフォーラムの開催について (3)その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告事項 (1)第3回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について 第3回男女共同参画推進市民委員会の会議の結果について報告。 (2)その他 2 議 題 (1)情報誌「YOU・I」第16号の発行について ・特集の内容をまとめ、事務局に送付する。 ・ゆうあい後記の原稿を委員全員が考え、事務局に送付する。 (2)第9回YOU・Iフォーラムの開催について ・第9回YOU・Iフォーラムの集合日時は、11月30日(日)午後1時、集合場所はさくらホール(市民会館)小ホール入口 ・YOU・Iフォーラムの当日の委員の役割分担は今回の委員会で決定したとおり、司会・進行-清野委員、受付-鴻田副委員長、栗原委員、三浦委員、会場整理-浜浦委員、内野委員、マイク-鈴木委員、矢口委員、接待係-荻原委員長、花束を渡す担当-宮川委員とする。 (3)その他 ・第5回は、11月14日(金)午後2時から開催する。 (4)学習タイム
審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 報告事項 (1)第3回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (事務局)第3回男女共同参画推進市民委員会の会議の結果について報告。 - 質疑・意見等 - 特になし。 (2)その他 - 質疑・意見等 - 特になし。 2 議 題 (1)情報誌「YOU・I」第16号の発行について (事務局)特集の記事の原稿を事前に送っていただいたので、それをもと

に事務局で仮の情報誌の原稿を作成しまとめた。特集のまとめについては、本日の原稿を参考に浜浦委員にまとめてもらうこととなっているので、願います。BOOKのスペースについては、ふれあいセンターの本を紹介してもらえたらいいのではないかとと思うので、清野委員と宮川委員にお願いしたい。ゆうあい後記については、委員に短文を考えてもらい、事務局に原稿をもらいたい。

特集記事のインタビューの分量だが、前回会議のとおり1人2分の1ページとなったので、そのスペースにあてはめた。今回の仮の情報誌では、共通質問について中心に載せているので、付け加える部分や省く箇所を指摘していただき、調整していきたいと思う。

(委員長) 特集のインタビューした感想を一言ずつ願います。

・仕事と子育ての人

(委員) 同じように子どもを持ち、仕事をしている人に話が聞けて、共感する部分もあり、また違う目線からいろいろな物事のとらえ方をしていてもわかり、いい勉強になった。

(委員長) 自分にとってどんな未来があって、こういうふうにしていききたいということが明確にあって、子どもに対して相手を大切にするというポジションから話をしていて、素敵の人だった。

・子育てに一生懸命な人

(委員) 2年前の自分と同じようなグラフだったので、共感があった。また、ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画の言葉が、難しいととらえられてしまうので、もう少し分かりやすく簡単に伝えられるような手段・方法があればと痛感した。子育てが一段落したら働きたいという意志を持っているが、今は家族の時間を大事にしてステップ・アップしていきたいとの話だったので、そういう人を応援していきたいと思う。

(委員) 話を聞いていると、子どもを連れて集まれる場があれば積極的に参加したいという話で、家の中とはまた違う時間を過ごしたいとの気持ちが強いようだ。

・自営業の人

(委員) 自分を記事にしているので特にはないが、理想と現実が違ってしまうのは、諦めている。会社員のように終わりの時間もなく、日常の仕事だけで一日追われてしまうことが現状なので、完璧に仕事をこなそうとすれば睡眠時間もとれなくなってしまうと思う。

・団塊世代の人

(委員) 常に社会のかかわり合いの中で生きていて、民生委員や商工会の役員を歴任し、今は社団法人立川法人会の理事をしている等、前に進んでいる人という印象を受けた。自分だけでなく、家族の方やまわりの老人の方たちとふれあいを持っていて、輪を大切にしていると感じられた。自分1人ではなく、みんなのおかげという気持ちでいるところも感銘を受けた。

(委員) 社会にかかわっていきながら、自分のできることをしていくということで、現在も仕事と家庭を両立しているとのことだったが、これからはもう少し仕事は若い世代に譲って、趣味や社会貢献にあてていきたいと話していた。

今、みなさんの話を聞いて、パーセントが均等になっているからといって、絶対バランスがとれているではなく、バランスというのは人によって違うということを改めて考えさせられた。この

特集記事を読んだ人が、自分のあてはまる例があって、こういうのも自分のバランスだと考えたり、参考になればいいのかと思った。

・若い男性の人

(事務局) 三浦委員が今日欠席だが、事前に原稿はもらったので、そのとおりにまとめた。インタビューをする時間がなかったので、アンケート形式にしたとのことである。若い男性ということだったが、インタビュー結果からも分かるように、共働きということなので、「共働き・男性」という枠にしたいと思う。

・村山の企業

(委員) 東京トヨタ武蔵村山に行き、話を聞いたが、何を質問していいのか分からなかったなので、結果的に人にインタビューするのと同じ内容をしてきた。企業でのワーク・ライフ・バランスの取組についても質問したが、特にないと回答だった。しかし、今日もう一度行く機会があったので話を聞くと、最近会議でそういう話が出たとのことで、これから働き方を見直す方向にあるようだ。特に現時点で、ワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業ではなかったが、今後休暇の取り方などを改めていくとの話だったので、そこをまとめて記事にしたい。

(委員長) 以上の結果を浜浦委員にまとめてもらえればと思う。

(委員) 時間的なパーセントを表現したらいいのか、心の部分のパーセントを表現したらいいのか、そこで随分違うと思う。時間できちりやれば数字はでるが、心の中のバランスがとれていれば、どんなに忙しくても幸せといえるのではないか。

(事務局) ワーク・ライフ・バランスは心の中のバランスだと思う。

(委員) 仕事にこんなに時間をとっていても、つらいことも多いかもしれないが、今充実されているということもあるかもしれない。こういったことも、まとめにいられてもらえれば、読んだ人がいると共感をもてるかもしれない。

(委員長) 特集に関しては今出た話のようにまとめる。次に、ゆうあい後記の言葉を一行ずつ各委員にまとめてもらえたらと思う。

(事務局) 若しくは、今回の発行と次回の発行と担当を分けて、5人ずつ担当してもらってもかまわない。

(委員) 2回しか情報誌の発行がないので、一行でもいいので委員全員の文を載せるほうがいい。

(事務局) 前回会議で字の大きさも気にされていたので、字を大きめにするなら1人一行になると思う。今回、特集を委員全員で取り組んだので、委員全員の一言を一行でいいので載せたほうがいいのかもわからない。

(委員長) 1回の区切りをつけるということで、全員の一言をゆうあい後記に載せることとする。いつまでに原稿が届くといいか。

(事務局) 10月17日までに、メールかFAXで原稿をお願いしたい。また、あわせて、特集の内容に付け加え等があったら、そちらもお願いしたい。

(委員長) インタビューした2人で話し合い、200字前後で、伝えたいインタビュー内容をまとめて、10月17日までに事務局に提出してもらいたい。

< 結 論 >

・特集の内容をまとめ、事務局に送付する。

・ゆうあい後記の原稿を委員全員考え、事務局に送付する。

